

令和 2 年度

山陽小野田市の水道



水源涵養林付近(厚東川の上流域)を流れる日峯川



脈々といのち支える水の道
山陽小野田市水道局

山陽小野田市水道局

〒756-0092 山陽小野田市新生一丁目8番22号 (電話) 83-4111 (FAX) 83-4597

高天原浄水場

〒759-0206 宇部市大字東須恵2547番地 (電話) 41-8220 (FAX) 41-8245

鴨庄浄水場

〒757-0005 山陽小野田市大字鴨庄821番地 (電話) 72-0352 (FAX) 72-0857

水道の水ができるまで

わたしたちが手を洗ったり、飲んだりしている水は、どこからくるのでしょうか。

水道局では、ダムや川の水を取り入れて浄水場に送り、ここでいろいろな施設を通して、きれいで安心して使える水にします。そして、高いところにある配水池に送り、ここから水道管を通して家庭や工場など、いろいろなところに配られます。



ちん
沈でん池
かものしょうじょうすいじょう
(鴨庄浄水場)



かち
ろ過池
たかまがはらじょうすいじょう
(高天原浄水場)



※一般的な例を示すもので、本市の浄水場の施設とは一部異なる部分があります。

番号	名称	役割
①	取水口	川やダムの水を取り入れます。
②	着水井	水の中の混ざりものを沈めるため、凝集剤(ぎょうしゅうざい)を入れてかき混ぜます。
③	沈でん池	小さな砂やゴミを底に沈め、きれいになった水をろ過池に送ります。
④	ろ過池	沈でん池できれいになった水を、砂の層でこして、もっときれいな水にします。
⑤	消毒設備	塩素(えんそ)を入れて消毒し、安心して飲める水にします。
⑥	浄水池	きれいになった水をためておく池で、配水池へ送る水を調節します。
⑦	送水ポンプ	使う水の量に応じて、ポンプで圧力をかけて、配水池へ送りだします。
⑧	配水池	ここから自然流下(しぜんりゅうか)により、家庭や学校、工場などに水を送ります。

水の星～地球～

わたしたちが住んでいるこの地球は、その面積の70パーセントが海や川、湖、沼などで占められています。つまり、地球は水の星ともいえます。

この地球上に住んでいる動物や植物は、水がなくては生きて行くことができません。水は、海や陸から蒸発して雲となり、雨や雪となって山や川、海などに再び戻ってきます。

このように、水はたえず地球上をめぐっており、わたしたちはこの水を利用して生活をしています。



水道の歩みと現況

○小野田地区

小野田地区は、旧来の地形が半島であったため雨水を十分に保水できず、古くより水不足に悩まされていました。江戸時代初期から明治初期までの間に大規模な干拓工事が行われ土地は拓がりましたが、干拓地の塩分を含んだ井戸水は飲料に適さず、排水の便が悪く伝染病も多発したために早期に上水道の設置が望まれていました。明治になって、小野田セメント(株) (現在の太平洋セメント(株)) が宇部市の厚東(ことう)川を水源として民間の水道事業を計画し、大正11年に国の認可を得ると、当時の小野田町が町営水道の設置のためその権利を譲り受け、昭和4年より工事を開始し、昭和6年から町内へ給水されるようになりました。その後、昭和15年の小野田町と高千帆町の合併による小野

昭和20年代頃の水道管の布設工事の様子



たかまがはらじょうすいじょう
高天原浄水場

田市誕生や、発電所の建設や工場の増設、石炭ブームによる商工業のめざましい発展などにより、水道・工業用水の需要増も見込まれたため、山口県はそれに対応すべく厚東川ダムの建設に着手し、これに伴い高天原(たかまがはら)浄水場や竜王山(りゅうおうざん)配水池が建設され、その後も基幹産業の進出操業により急増する水需要に対応するために丸山ダムが築造されました。これらの事業拡張により、小野田地区では計画給水人口57,600人、計画一日最大給水量32,400m³を給水できる水道施設が構築されました。

○山陽地区

山陽地区では、最も人口が集中している厚狭(あさ)低地の水質が良くないうえ、第2次世界大戦直後まで開発された炭鉱による汚濁が相乗したため、上水道の設置が望まれていました。厚狭川を水源とすることも検討されましたが、戦後の炭鉱増産に伴い、上流域の炭鉱からの粉塵(ふんじん)や汚水により、川の水は黒くなっていました。そのため、鴨庄(かものしょう)に取水井を設置して地下水を水源とした上水道設置が昭和24年に山陽町議会において議決され、昭和27年から町内へ給水されるようになりました。また、厚狭川の炭塵(たんじん)汚水の問題については、昭和33年に議会内に汚水対策特別委員会を設置して、上流域の調査や再三の関係者への要請等がされた結果、昭和35年秋から次第に厚狭川の水質も改善されて、清浄さが保たれるようになったことや、増え続ける給水人口と使用水量の増加に対応するため、昭和42年から厚狭川の表流水を水源とした水道水の供給も開始されました。その後も山野井工業団地の造成により産業都市として発展が見込まれて、事業拡張を行い、山陽地区では計画給水人口26,120人、計画一日最大給水量15,830m³を給水できる水道施設が構築されました。



かものしょうじょうすいじょう
鴨庄浄水場

〇現在

山陽小野田市水道局 庁舎



平成17年3月22日の山陽小野田市の誕生と同時に、計画給水人口 83,720 人、計画一日最大給水量 48,230m³/日の水道事業と2つの簡易水道事業及び工業用水道事業を合わせて山陽小野田市水道局がスタートしました。事務所は新生一丁目（旧小野田市水道局）に設置され、浄水場は小野田地区に高天原（たかまがはら）浄水場、山陽地区に鴨庄（かもしょう）浄水場をそれぞれ持ち、市域全体に水道を給水する施設が構築されています。

本市の水道事業は拡張事業を重ねながら、市民の健康で文化的な生活を支えるとともに、産業活動や都市機能の向上に必要なライフラインとして市勢の発展に寄与してきましたが、現在では上水道の普及率（行政区域内人口に対する給水人口の割合）が99.3%となり、殆どの地区で水道が利用できるようになりました。

近年、暮らしの安全に対する関心が高まる中で、今まで以上に安全な水道水を供給するため、「山陽小野田市水道局水質検査計画」を策定して、水道局窓口やホームページ等で公開するとともに、市内9箇所にて水質モニターにより毎日の水質状態を確認していただき、異常があった際には迅速に対処できる体制がつくられています。



水源涵養林 案内看板
(美祢市秋芳町嘉万)

修繕の連絡・受け付けや料金の支払いについても、水道局の事務所において夜間・休日窓口を設置するなど、質の高いサービスを図っています。

また、水道のおおもとである水源地域の山林や河川の環境保全を行い、水源の水質や水量の維持を図るため、平成13年度より水源涵養林（すいげんかんようりん）事業を開始して厚東川の上流域である美祢市秋芳町の山林を取得し、自然の恵みである水を保護し育む取り組みを行っています。

山陽小野田市の水道事業等

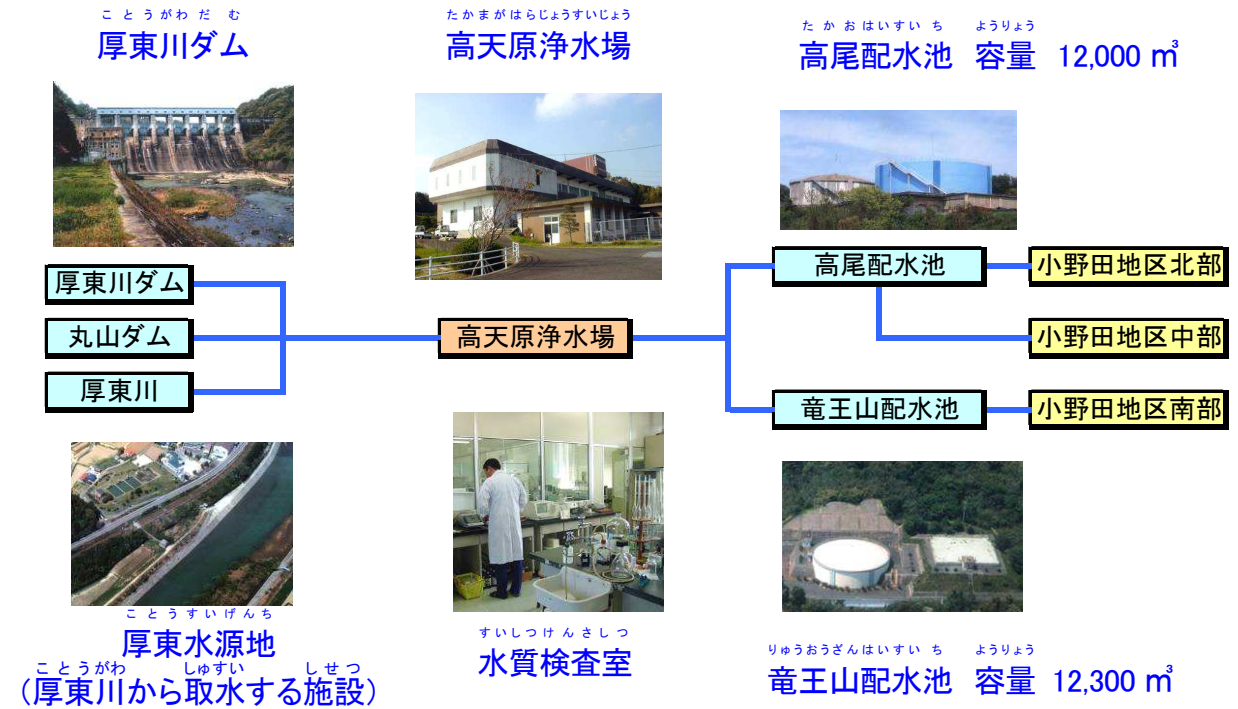
事業名	給水開始日	施設規模等
水道事業	小野田地区 昭和6年4月1日	1日計画最大給水量 32,400 m ³ /日
	山陽地区 昭和27年6月1日	1日計画最大給水量 15,830 m ³ /日
	合計	48,230 m ³ /日
簡易水道事業	いもじや 鋳物師屋・西山地区 昭和56年4月1日	1日計画最大給水量 38 m ³ /日
	かたおぼた 平原・片尾畑地区 昭和58年6月1日	1日計画最大給水量 22 m ³ /日
工業用水道事業	昭和29年4月1日	給水能力 24,700 m ³ /日 現在3社に供給

水道事業及び簡易水道事業の現況（令和2年3月末現在）

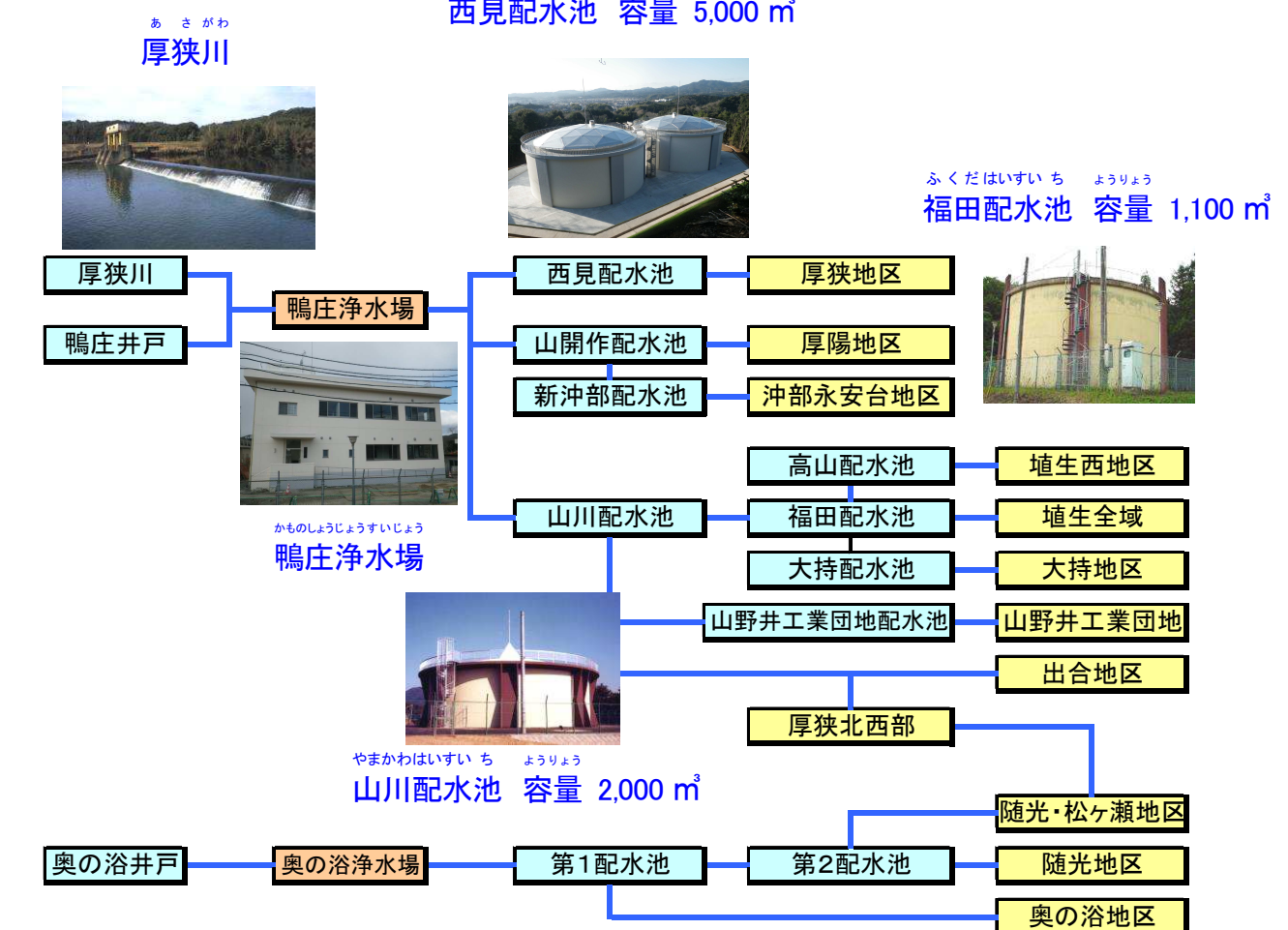
項目	数量	単位	項目	数量	単位
行政区域内人口	62,059	人	導送配水管延長	428.3	km
給水人口	61,633	人	1日最大給水量	29,251	m ³
給水戸数	28,800	戸	1日平均給水量	23,343	m ³
普及率	99.3	%	年間配水量	8,543,659	m ³

水道事業施設の概況

小野田地区



山陽地区



山陽小野田市内の配水系統図

